

予防医学

責任者・コーディネーター	衛生学公衆衛生学講座 坂田 清美 教授		
担当講座・学科(分野)	衛生学公衆衛生学講座		
担当教員	坂田 清美 教授、小野田 敏行 准教授、丹野 高三 准教授、大澤 正樹 講師、八重樫 由美 助教、中屋 重直 客員教授、笠置 文善 客員教授、柳川 洋 非常勤講師、立身 政信 非常勤講師、吉村 英子 非常勤講師、小泉 明 非常勤講師、野原 勝 非常勤講師、牟礼 佳苗 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数	講義 33時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

予防医学は医学的な知識や経験を国民の健康維持にどう応用するか、その方法論と具体的な社会制度を学ぶものである。疾病予防にとどまらず法律や行政の仕組み、医療費などの医療経済に関わる点まで含んで「健康」というキーワードで俯瞰する学問分野である。講義は演習を含み講義時間内に基本的な知識、技術の獲得を目指す。

・一般目標（GIO）

予防医学は健康状況の把握方法や、生活習慣や労働による疾病予防の方法論を学び、施策、行政との関連などを学ぶものである。「健康」の概念の理解とその予防方法について学ぶとともに保健医療制度の仕組みの概略と医師の果たすべき役割を理解する。また将来医師として社会に関わる際の医療制度、保健活動の基本的な仕組みについても学ぶ。

・到達目標（SBO）

1. 予防の概念について述べることができる。
2. 地域保健の仕組みと保健所について概略を述べることができる。
3. 医療制度と医療保険制度について述べることができる。
4. 介護保険制度について説明できる。
5. 母子保健制度の仕組みについて概略を述べることができる。
6. 感染症の予防と法制度について概略を述べることができる。
7. わが国の主要死因の内訳と動向を述べることができる。
8. 栄養と健康の関わりについて説明できる。
9. 循環器疾患の危険因子についてその概略を述べることができる。
10. がんの危険因子について概略を述べることができる。
11. 飲酒・喫煙の生体影響とその予防法について述べることができる。
12. 生活習慣病の概念とその予防法について述べることができる。
13. 学校保健制度の仕組みについて概略を述べることができる。

14. 国際的な保健問題について概略を述べることができる。
15. 精神保健の仕組みを述べることができる。
16. 職域保健における疾病の管理予防について概略を述べることができる。
17. 障害者の医療と福祉について述べるができる。
18. 産業現場で用いる主要な有害物についてその生体影響を説明できる。

・講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
11/16	金	2	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	予防医学総論
11/27	火	1	衛生学公衆衛生学講座	小野田 敏行 准教授	医療関係法規と制度
11/27	火	2	衛生学公衆衛生学講座	牟礼 佳苗 非常勤講師	がんの危険因子と予防
11/30	金	2	衛生学公衆衛生学講座	柳川 洋 非常勤講師	健康日本 21 と健康増進
12/4	火	1	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 准教授	主要疾患とその動向
12/4	火	2	衛生学公衆衛生学講座	野原 勝 非常勤講師	感染症と関連法規
12/5	水	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	喫煙と健康
12/5	水	4	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	介護保険制度
12/11	火	1	衛生学公衆衛生学講座	大澤 正樹 講師	飲酒と健康
12/11	火	2	衛生学公衆衛生学講座	吉村 英子 非常勤講師	学校保健
12/12	水	3	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 准教授	国際保健
12/12	水	4	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 准教授	母子保健制度と健やか親子 21
12/18	火	1	衛生学公衆衛生学講座	大澤 正樹 講師	食品保健
12/18	火	2	衛生学公衆衛生学講座	大澤 正樹 講師	栄養と健康

12/19	水	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	循環器疾患の危険因子と予防
12/19	水	4	衛生学公衆衛生学講座	小泉 明 非常勤講師	障害者の医療と福祉（精神保健を含む）
12/25	火	1	衛生学公衆衛生学講座	小野田 敏行 准教授	産業医の職務と3管理
12/25	火	2	衛生学公衆衛生学講座	小野田 敏行 准教授	産業保健制度と関連法規
1/8	火	1	衛生学公衆衛生学講座	立身 政信 非常勤講師	産業疲労
1/8	火	2	衛生学公衆衛生学講座	笠置 文善 客員教授	放射線の健康影響について
1/9	水	3	衛生学公衆衛生学講座	中屋 重直 客員教授	発がん物質とじん肺
1/9	水	4	衛生学公衆衛生学講座	小野田 敏行 准教授	化学的要因

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	公衆衛生マニュアル 2012 30 版	柳川洋 他編	南山堂	2012
参	国民衛生の動向 2012/2013（厚生 の指標 臨時増刊最新版）	厚生統計協会	厚生統計協会	2012

・成績評価方法

試験 100%（但し、講義出席を加味する）

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン一式 PowerMACG5	1	講義資料作成
講義	19 インチ TFT 液晶モニター Flex Scan L767	1	講義資料作成

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン PGGX505cp	1	講義時のプレゼンテーション
講義	パソコン一式 (dc5100SF/CTIODATEFT)	1	講義資料作成
講義	ノンホットモデル SATA ベースユニット (ML110G3)	1	講義資料の共有
講義	ノートパソコン一式 (Dv9500/CT)	1	講義時のプレゼンテーション